

表1. 回答施設の許可病床数

病床数	度数	パーセント	累積	
			累積度数	パーセント
100床未満	8	10.96	8	10.96
100～199床	8	10.96	16	21.92
200～299床	6	8.22	22	30.14
300～399床	10	13.70	32	43.84
400～499床	13	17.81	45	61.64
500床以上	28	38.36	73	100.00

表2. 担当診療科での血小板輸血年間使用量（平成12年1月1日～12月31日の1年間）

使用量	度数	パーセント	累積	
			累積度数	パーセント
1000単位未満	21	30.88	21	30.88
1000～1999単位	7	10.29	28	41.18
2000～2999単位	3	4.41	31	45.59
3000～3999単位	2	2.94	33	48.53
4000～4999単位	4	5.88	37	54.41
5000～9999単位	15	22.06	52	76.47
10000～19999単位	10	14.71	62	91.18
20000単位以上	6	8.82	68	100.00

表3. 担当診療科での血小板輸血年間施行延べ患者数  
（平成12年1月1日～12月31日の1年間）

延べ患者数	度数	パーセント	累積	
			累積度数	パーセント
50人未満	22	33.85	22	33.85
50～99人	7	10.77	29	44.62
100～199人	10	15.38	39	60.00
200～499人	7	10.77	46	70.77
500～999人	13	20.00	59	90.77
1000人以上	6	9.23	65	100.00

表4. 血液内科医としての臨床経験年数

経験年数	度数	パーセント	累積	
			累積度数	パーセント
5年未満	32	16.24	32	16.24
5～9年	40	20.30	72	36.55
10～14年	41	20.81	113	57.36
15～19年	42	21.32	155	78.68
20年以上	42	21.32	197	100.00

表5. 急性白血病の寛解導入療法  
決まった頻度・量の血小板輸血を行う

	度数	パーセント	累積	
			累積度数	パーセント
はい	16	8.12	16	8.12
いいえ	181	91.88	197	100.00

その場合の週の回数

回数	度数	パーセント	累積	
			累積度数	パーセント
2	7	43.75	7	43.75
3	8	50.00	15	93.75
4	1	6.25	16	100.00

その場合の1回の使用量・単位

使用量	度数	パーセント	累積	
			累積度数	パーセント
10	13	81.25	13	81.25
15	1	6.25	14	87.50
20	2	12.50	16	100.00

検査成績・臨床症状を見ながら血小板輸血を行う  
その場合の血小板輸血の条件

条件	度数	パーセント	累積	
			累積度数	パーセント
Plt 5万/ $\mu$ L未満	1	0.55	1	0.55
Plt 2万/ $\mu$ L未満	118	65.19	119	65.75
Plt 1万/ $\mu$ L未満	13	7.18	132	72.93
Plt 5万/ $\mu$ L未満+出血傾向	3	1.66	135	74.59
Plt 2万/ $\mu$ L未満+出血傾向	30	16.57	165	91.16
Plt 1万/ $\mu$ L未満+出血傾向	6	3.31	171	94.48
その他	10	5.52	181	100.00

表6. 再生不良性貧血または骨髄異形成症候群における血小板輸血の条件

条件	度数	パーセント	累積	
			累積度数	パーセント
Plt 2万/ $\mu$ L未満	13	6.63	13	6.63
Plt 1万/ $\mu$ L未満	27	13.78	40	20.41
Plt 5千/ $\mu$ L未満	7	3.57	47	23.98
Plt 2万/ $\mu$ L未満+出血傾向	53	27.04	100	51.02
Plt 1万/ $\mu$ L未満+出血傾向	76	38.78	176	89.80
Plt 5千/ $\mu$ L未満+出血傾向	9	4.59	185	94.39
その他	11	5.61	196	100.00

表7. 同種造血幹細胞移植療法  
決まった頻度・量の血小板輸血を行う

			累積	
	度数	パーセント	累積度数	パーセント
はい	30	16.48	30	16.48
いいえ	152	83.52	182	100.00

その場合の週の回数

回数			累積	
	度数	パーセント	累積度数	パーセント
2	2	6.67	2	6.67
3	25	83.33	27	90.00
4	2	6.67	29	96.67
5	1	3.33	30	100.00

その場合の1回の使用量・単位

使用量			累積	
	度数	パーセント	累積度数	パーセント
10	23	76.67	23	76.67
15	4	13.33	27	90.00
20	3	10.00	30	100.00

検査成績・臨床症状を見ながら血小板輸血を行う  
その場合の血小板輸血の条件

条件			累積	
	度数	パーセント	累積度数	パーセント
Plt 5万/ $\mu$ L未満	5	3.29	5	3.29
Plt 2万/ $\mu$ L未満	99	65.13	104	68.42
Plt 1万/ $\mu$ L未満	5	3.29	109	71.71
Plt 5万/ $\mu$ L未満+出血傾向	7	4.61	116	76.32
Plt 2万/ $\mu$ L未満+出血傾向	21	13.82	137	90.13
Plt 1万/ $\mu$ L未満+出血傾向	5	3.29	142	93.42
その他	10	6.58	152	100.00

表8. 白血病の治療中にDICを合併した場合の血小板輸血の条件

条件	度数	パーセント	累積	
			累積度数	パーセント
Plt 5万/ $\mu$ L未満	26	13.40	26	13.40
Plt 2万/ $\mu$ L未満	69	35.57	95	48.97
Plt 1万/ $\mu$ L未満	1	0.52	96	49.48
Plt 5万/ $\mu$ L未満+出血傾向	41	21.13	137	70.62
Plt 2万/ $\mu$ L未満+出血傾向	37	19.07	174	89.69
Plt 1万/ $\mu$ L未満+出血傾向	8	4.12	182	93.81
その他	12	6.19	194	100.00

表9.

症例1 57歳、女性、体重46kg、身長156cm 診断：重症再生不良性貧血 臨床経過：4年前より上記診断にて加療中、副腎皮質ホルモン、ATG療法により一時的に改善するも汎血球減少は持続している。現在、外来にて1日metenolone 10mg服用で経過観察している。WBC2,500/ $\mu$ L、Hb6.7g/dL、Plt8,000/ $\mu$ Lで赤血球濃厚液2単位を約2週間に1回輸血してHbは6g/dL以上を保っている。出血傾向は下腿に軽度の点状出血を認め、歯みがきの時に軽度の出血を見る。

・血小板輸血はどのように行いますか。

1：1-2週間に1回、血小板濃厚液を10-15単位輸血する。

2：1-2週間に1回、HLA適合血小板濃厚液を10-15単位輸血する。

3：大量の鼻出血や内臓出血の徴候が出現したら、HLA適合血小板濃厚液を輸血する。

4：脳内出血、肺出血、消化管出血で入院加療が必要になってとき、初めて血小板濃厚液輸血を行い、この時はHLA適合血小板を用いる。

5：その他

回答	度数	パーセント	累積度数	累積パーセント
1	2	1.03	2	1.03
2	53	27.18	55	28.21
3	130	66.67	185	94.87
4	3	1.54	188	96.41
5	7	3.59	195	100

表10.

症例2 21歳、男性、体重66kg、身長176cm 診断：急性リンパ性白血病 (FAB:L2)

臨床経過：2週間前より微熱、全身倦怠感を訴え近医を受診し、貧血を認め当院紹介となる。

WBC142,500/ $\mu$ L、Hb10.7g/dL、Plt120,000/ $\mu$ L、末梢血にリンパ芽球65%。上記診断にて寛解導入療法を行った。化学療法開始後7日後、Plt18,000/ $\mu$ Lとなった。出血傾向は特に認められない。なお、この時点では明らかな感染症を認めず、DICの所見もない。

・血小板輸血はどのように行いますか。

- 1：造血が回復するまで1週間に2-4回、血小板濃厚液を1回に10単位輸血する。
- 2：造血が回復するまで1週間に2-4回、血小板濃厚液を1回に15単位輸血する。
- 3：Pltが20,000/ $\mu$ L未滿になったら血小板濃厚液を1回に10-15単位輸血する。
- 4：Pltが10,000/ $\mu$ L未滿になったら血小板濃厚液を1回に10-15単位輸血する。
- 5：大量の鼻出血や内臓出血の徴候が出現しない限り、血小板濃厚液は輸血しない。
- 6：その他

回答	度数	パーセント	累積度数	累積パーセント
1	21	10.71	21	10.71
2	2	1.02	23	11.73
3	135	68.88	158	80.61
4	22	11.22	180	91.84
5	8	4.08	188	95.92
6	8	4.08	196	100

表11.

症例3 32歳、女性、体重51kg、身長159cm 診断：慢性骨髄性白血病（第2慢性期）

臨床経過：3年前、上記診断にて、hydroxyuria、interferon  $\alpha$ にて治療していたが、6ヶ月前リンパ芽球の急性転化を起こした。VP療法で再び慢性期になり、HLA適合の同胞がおらず、日本骨髄バンクのHLA6座一致ドナーより同種骨髄移植を行うこととなった。前処置は大量busulfan、cyclophosphamide及び全リンパ節照射を行った。骨髄移植日はWBC2,500/ $\mu$ L、Hb11.7g/dL、Plt72,000/ $\mu$ L、移植の前処置からこの時点まで輸血は必要としていない。今後、造血が回復するまで血小板輸血はどのようにしますか。

・血小板輸血は計画的に予定しますか。（はい、いいえ）

回答	度数	パーセント	累積度数	累積パーセント
はい	41	24.55	41	24.55
いいえ	126	75.45	167	100

・血小板輸血を計画的に行う場合、1週間に輸血回数は何回ですか。

回答	度数	パーセント	累積度数	累積パーセント
1	3	6.52	3	6.52
2	8	17.39	11	23.91
3	29	63.04	40	86.96
4	5	10.87	45	97.83
5	1	2.17	46	100

・血小板輸血を計画的に行う場合、1回の使用量・単位どれくらいですか。

回答	度数	パーセント	累積度数	累積パーセント
10	39	81.25	39	81.25
15	8	16.67	47	97.92
20	1	2.08	48	100

・血小板輸血を計画的に行わない場合、どのような基準で行いますか。

基準	度数	パーセント	累積度数	累積パーセント
Plt5万/ $\mu$ L未満	9	5.45	9	5.45
Plt2万/ $\mu$ L未満	114	69.09	123	74.55
Plt1万/ $\mu$ L未満	6	3.64	129	78.18
Plt5万/ $\mu$ L未満+出血傾向	4	2.42	133	80.61
Plt2万/ $\mu$ L未満+出血傾向	20	12.12	153	92.73
Plt1万/ $\mu$ L未満+出血傾向	7	4.24	160	96.97
その他	5	3.03	165	100



表12.

症例4 62歳、女性、体重52kg、身長154cm 診断：腹部大動脈瘤

臨床経過：13年前より、SLEにて加療中。現在、副腎皮質ホルモン1日5mgで炎症反応もなく経過している。3年前、超音波検査で腹部大動脈瘤が発見されたが、外来で経過を観察していた。4週間前より、血小板が減少しはじめ、数日前よりタール便に気づいた。本日、WBC4,700/ $\mu$ L、Hb9.1g/dL、Plt24,000/ $\mu$ Lとなり、下腿、前胸部に点状出血と紫斑を認めため入院となった。FDP40 $\mu$ g/mL、fibrinogen92mg/dL、プロトロンビン時間17.2秒（対照11秒）であり、緊急胃内視鏡にて胃体部大彎側に活動性潰瘍が発見され、腹部大動脈瘤によるDICと診断された。

・この時点で、血小板輸血はどのように行いますか。

- 1：FFPの輸注、DICの治療を行い、血小板輸血は行わない
- 2：血小板輸血を優先する
- 3：FFPの輸注DICの治療とともに血小板輸血も行う
- 4：その他

回答	度数	パーセント	累積度数	累積パーセント
1	39	20	39	20
2	2	1.03	41	21.03
3	150	76.92	191	97.95
4	4	2.05	195	100

・血小板輸血を行う場合、どの位のレベルを目標にしますか。

- 1：Plt100,000/ $\mu$ L以上を保つ
- 2：Plt50,000/ $\mu$ L以上を保つ
- 3：Plt30,000/ $\mu$ L以上を保つ
- 4：Plt20,000/ $\mu$ L以上を保つ
- 5：その他

回答	度数	パーセント	累積度数	累積パーセント
1	0	0	0	0
2	40	22.35	40	22.35
3	69	38.55	109	60.89
4	64	35.75	173	96.65
5	6	3.35	179	100

表13. 抗血小板抗体陽性率

	患者数	輸血回数
A群	11/184 (6.0%)	55/794 (6.9%)
B群	4/356 (1.1%)	13/1463 (0.9%)
C群	1/157 (0.6%)	5/721 (0.7%)